

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191600085		
法人名	医療法人社団 栄寿会		
事業所名	グループホーム栄寿荘		
所在地	佐賀県杵島郡江北町大字上小田280-1		
自己評価作成日	平成31年 1月 10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成31年 2月 14日	外部評価確定日	令和元年5月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・ご家族様との信頼関係の構築を大切に、また、面会に来やすい開放的な雰囲気作りを心掛けています。どのご家族様もとても協力的で温かく、面会も多く、面会時には近況報告を行い、情報の共有に努めています。</p> <p>・認知症対応型施設なので、まずは認知症状の理解に努め、その上でケアの方向性について検討するように心掛けています。行動心理症状を問題行動と捉えず、入居者様それぞれに抱えている不安を考え、BPSDに至る過程を分析するように努めています。</p> <p>・認知症カフェを江北町の委託事業として今年度は6回開催しています。うち1回は施設を一般の方に開放しています。入居者様にもカフェ運営のお手伝いをして頂き、地域の方々と交流されている姿を通して、認知症になっても、周囲のサポートがあれば出来ることがたくさんあることを知って頂いたり、入居者様自身にも社会の一員としての存在意義を感じて頂きたいと願っています。「認知症になると何も出来なくなる」「怖い病気」というマイナスイメージや間違った情報がまだまだ多い中、意識改革に繋げたり、認知症について正しい情報をお伝えしていく大切な役割を担っていると考えています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>開設とともに作成された「私達は良き出会いに感謝し、互いに尊敬し、明るいホームを目指します」は母体となる医療法人の運営理念で、その思いと共に、現在も引き継がれている。それを基に職員で話し合い、理念を作成し「相手を尊敬し、思いやりをもって向き合い、安心して生活できる、居心地のいい場所で笑顔で喜びのある、人生を送っていただく」が大きくリビングに掲示され、実践されている。利用者一人ひとりの尊厳を尊重した支援で、利用者は穏やかに生活できている。地域とは積極的に交流を図っている。町から委託され、地域の空き店舗を利用して、定期的開催している「認知症カフェ」は利用者や家族、地域住民の参加も多い。そこで得られる時間は、職員に利用者に関わる機会をより多くしている。ホームは、田園に囲まれた静かな環境の中に位置し、ゆったりと穏やかに暮らす入居者の様子が窺える。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ)	自己評価／ユニットB(Ⅱ)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	実施状況
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認知症高齢者の方々の「人としての尊厳」が損なわれる事無く、地域や家族の一員として生き生きとその方の役割を果たして頂けるような施設理念を管理者と職員で作り上げた。新人の職員にも理念を念頭に個別支援が出来る様荘内に掲示している。	認知症高齢者の方々の「人としての尊厳」が損なわれる事無く、それぞれの人生を受け入れ、人として理解し、思いを大切にケアの在り方を、勉強会や地域の研修会に参加して考え、管理者、職員で理念を共有して、個別支援に繋げている。	事業所開設時の運営理念を基本にして、認知症を学び、利用者の思いを汲んだ独自の理念を職員全員で考え、目につきやすいリビングルームに大きく掲示している。職員は日頃の支援や、定例の会議の中で、運営理念を意識しながら、共有に努めている。管理者も場に応じて適切な指導、助言を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に地域の空き店舗や当施設にて認知症カフェを開催し、地域の方々との交流や認知症への理解を深めて頂いている。又地域の方が毎週ボランティアで来荘され、歌、踊り、傾聴など利用者様と一緒に楽しまれている。毎年地区の夏祭り、祇園、おくんちにも参加し、地域の方から提供して頂いている畑での野菜の収穫体験にも参加している。	地域の空き店舗や当施設にて認知症カフェを開催し、地域の方々との交流や認知症への理解を深めて頂いている。地域の方々が毎週ボランティアで来荘されて、音楽、歌、踊り、お遊戯、傾聴など利用者様と一緒に参加し楽しまれている。スタッフと近隣散歩やドライブをして、地域の方々と会話や挨拶が出来ている。地域の方に畑を提供して頂き、野菜の収穫体験へも参加している。	法人として自治会に加入している。清掃活動までの参加はないが、地域から回覧でのお知らせや行事案内の情報を得ている。秋祭りは毎年御神輿を担いでにぎやかに事業所立ち寄りもおこなわれている。また町から委託された認知症カフェ開催に至っては、利用者も一緒に参加し、地域に溶け込んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	様々な機会において(認知症カフェ、運営推進会議、民生委員研修、地区の老人会での認知症劇)認知症を理解して頂くような取り組みを実施している。又地域の方々へも気軽な相談場所として活用されるよう声掛けを行っている。	様々な機会において(認知症カフェ、運営推進会議、民生委員研修、地区の老人会での観劇)、認知症を理解してもらえるような取組をして、理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月毎の入居者状況、行事報告を行いながら施設内外の情報交換を行っている。又、認知症に関する様々な情報を提供する事で、委員の方の理解を深めてもらい数多くの意見を頂戴し、サービスの向上に活かしている。	民生委員、区長、老人会長、知見者、包括職員へ、月毎の入居者状況、行事報告を行いながら、施設内外の情報交換を行っている。認知症の理解を深めてもらい、サービスの向上に活かしている。	会議は地域の区長や民生委員等、関係者が参加し定期的開催され、事業所から近況報告が行われている。利用者家族にも参加を促し参加いただくよう声をかけているが、現在は参加されていない。活発な意見は少ないが、地域からの情報を得ることも多い。自己評価も兼ねた外部評価の報告も行っている。議事録もきちんと作成されている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ)	自己評価／ユニットB(Ⅱ)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へ役場包括職員も参加して頂き、施設運営上の問題点、疑問などを伝え伺いを立てながらサービスの向上に努めている。また、協力を得ながら定期的に認知症カフェの開催を行っている。	運営推進会議へ役場包括職員も参加して頂き、施設運営上の問題点、疑問などを伝え、伺いながら、サービスの向上に努めている。定期的に市町村役場と協力して、認知症カフェの開催を行っている。	市町村担当者は運営推進会議に参加があり、また町からの委託を受け定期的に「認知症カフェ」を開催し、連絡を密にとり協力関係を築いている。町全体の包括連絡会議に参加し、情報を得、運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則、身体拘束は禁止とし、身体拘束に関する考え方を職員で協議し、安全面をやむを得ない場合以外での拘束予防に努めている。基本的には玄関を開放とし、緊急、危険の予測がある場合は短時間施錠を行っている。家族様へも事前の説明を行い理解頂いている。	原則、身体拘束は禁止とし、身体拘束に関する考え方をスタッフで協議して、安全面をやむを得ない場合以外での拘束予防に努めている。無断外出や転倒、転落などのリスクもあり、御家族様へ説明し一時的に玄関を施錠したり、センサーマットを使用して理解も得られている。	身体拘束廃止のための研修も行われ身体拘束のもたらす弊害を職員全員が認識している。利用者の状況に合わせ、安全のためにやむを得ず必要と感じられる場合でも最小限にとどめている。玄関の施錠はなく、外出傾向のある利用者は職員の見守りと連携で安全な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや勉強会、研修などに参加し常に「人権意識」を念頭に置き、「認知症高齢者虐待防止」について話し合う機会を設けている。又、掲示物やマニュアルを常に目の届くところに置いて職員への意識付けを行っている。	ミーティングや勉強会、研修などで常に「人権意識」を念頭に置き、「認知症高齢者の虐待防止」について話し合う機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設全体として「権利擁護」について常に関心を持ち、利用者様、家族様はもとより地域の方々への助言、関係機関等への紹介が出来るよう支援を行っている。	施設全体として「権利擁護」について研修会などに参加し、管理者及び職員が関心を持ち、利用者様、家族様、地域の方の助言を頂き、必要であれば関係機関へ迅速に対応できるよう支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前には可能な限りご本人様、御家族様で施設を見学して頂き、雰囲気を感じて頂いたり、施設の特徴などをお伝えしている。不安や要望などもお尋ねしながら、サービス内容を十分に説明し、理解して頂き、納得された上での契約をお勧めしている。	契約の前には可能な限りご本人様、御家族様で施設を見学して頂き、雰囲気を感じて頂いたり、施設の特徴などをお伝えしている。不安や要望などもお尋ねしながら、サービス内容を十分に説明し、理解して頂き、納得した上で契約をお勧めしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族様より遠慮なく意見、要望を出して頂きやすい施設の雰囲気や関係作りに努めている。家族様の面会も積極的にお願ひし、家族様を通してご本人様の要望などを聞き取り、ケアに活かすよう努めている。意見箱、ポスターを掲示し、苦情や意見が滞る事の無いよう努めている。	利用者様からの意見や不満を出して頂けるような遠慮ない施設の雰囲気やスタッフとの関係作りに努めている。家族様の面会も積極的にして頂いており、家族様を通してご本人様の要望などを聞き取り、ケアに活かすよう努めている。ポスターを掲示することで家族様に意識して頂いている。	利用者家族の面会時には会話をもち家族の不安や心配ごと、要望等をきちんと受け止めるよう努め、支援に活かしている。苦情処理等についても入居時に説明し、掲示もしている利用者の定期受診の時などに、出来るだけ意見が出るような雰囲気作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月初めにスタッフミーティングを行い管理者からの情報やスタッフの意見を共有し反映出来ている。	スタッフミーティングでは介護部長、看護師が出席し、違う部署からも意見を求めている。月一回の経営者会議の事を管理者から報告することで情報を共有している。職員が自由に意見を出せる様に雰囲気作りを行っている。	毎月行われる職員会議では自由に意見が出せるよう雰囲気づくりに配慮しているが、管理者も日常の業務に携わっており、日常的に職員からケア内容や勤務形態の変更など伝えられている。意見や提案は全職員で話し合い運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月初めのスタッフミーティングにて職場環境が向上するよう全体で意見を出し合ったり、資格取得や研修会の出席を奨励しサポートを行っている。	職員の意見を聞き働きやすい環境を整え、資格取得や研修会の出席を奨励し、サポートを行っている。不定期で食事会や法人内の行事等で職員の心身のリフレッシュに配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護指導者を配置している。事例検討会を開催しておりケアプランの作成にも繋げている。スタッフが外部の研修に参加しており、内部に持ち込み他のスタッフに勉強会にて報告し、育成に繋がっている。資質の向上を目指している。	認知症介護指導者を配置している。事例検討会を開催しておりケアプランの作成にも繋げている。スタッフが外部の研修に参加しており、内部に持ち込み他のスタッフに勉強会にて報告し、育成に繋がっている。資質の向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部での勉強会や交流の機会を作り同業者との連携やサービスの質の向上に努めている。	佐賀県グループホーム協会の研修会などに参加し同業者との連携を図っている。学んだ事を施設での勉強会に繋げている。職員が研修会などに参加することで他施設との交流を図る機会をつくり、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様と共に施設内を見学して頂き、施設の印象、不安な事や要望などお聞きする機会を設けている。	ご家族とともに施設内を見学して頂き、直接に施設の印象や要望、お困りごとなどをお聞きする機会を設けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様と共に施設内を見学して頂き施設の印象、不安な事や要望などお聞きする機会を設け信頼関係を築く様努めている。	全職員和やかな雰囲気に対応するよう心がけ、ご本人やご家族の不安、要望には傾聴しながら信頼関係を築くよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期相談の段階からGH内ケアマネージャーも同席し、ご本人やご家族の抱えられている問題について十分な聞き取りを行いケアに繋げている。	初期相談の段階からGH内ケアマネージャーも同席し、ご本人やご家族の抱えられている問題について十分な聞き取りを行っている。他の福祉サービス情報の提供をできている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	GH内で利用者様と共に生活を営む中でたくさんの気づきや学びを得る機会が多い。利用者様の残存能力を十分に発揮して頂けるよう努め今以上に信頼関係を築けるよう努めている。	GH内で利用者とともに生活を営む中でたくさんの気づきや学びを得る機会が多いと感じている。若いスタッフも多く利用者には生活上の助言を頂いています。利用者の残存能力を十分に発揮して頂けるように努め今以上に信頼関係が築けるよう努めている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とのコミュニケーションも大切にしており、スタッフと遠慮のない気軽な関係を目指し素直なご意見を頂けるような環境作りに努めている。	ご家族とのコミュニケーションも大切にしており、スタッフと遠慮のない気軽な関係を目指している。素直なご意見を頂けるような環境づくりに努めている。ケアプラン変更時期のカンファレンスにはご家族様も参加して頂き、ケアの方針を一緒に考えて頂いている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事への参加等にて近隣の方々との交流もあり、利用者様にも喜んで頂いている。ご家族様や近隣の馴染みの方々なども気軽に来て頂けるよう、声掛けし関係継続の支援に努めている。	地域の行事への参加等にて近隣の方々との交流もあり、利用者様にも喜んで頂いている。ご家族様や近隣の馴染みの方々なども気軽に来て頂けるよう、声掛けし関係継続の支援に努めている。	人とのつながりを大切にし、友人、知人など誰でも来やすい雰囲気づくりを心がけ、知人との交流が途切れないよう支援している。知人の方が面会に来られた時は、居室に案内し、ゆっくりと過ごして頂くようにしている。また希望によっては家族に連絡を取り協力を得て、思いに応じられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりに合ったレク活動を提供するように努めている。利用者様同士の関係性を考慮し、食席の配置、普段過ごされるソファの配置等工夫している。	食席の配置なども利用者様同士の関係を考慮し、孤立される方がないように工夫をしている。レク活動の際も一人一人に声掛けしながら行ったり、言い争い等のトラブル時はスタッフが介入し個別に対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や移設などにより契約終了された後も面会や様子伺いなどを行い、必要に応じて本人様・家族様のサポートを行っている。	入院、移設などにより退荘された利用者様も、面会や様子伺い等にて本人様やご家族様の経過を把握し、少しでもサポート出来る事があるなら支援して行けるように努めている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	カンファレンス時には、利用者様、家族様の意向を尋ねている。利用者様、家族様の意向に沿って出来る限りの支援に努めている。意思疎通が困難な利用者様は、これまで生活歴を把握し、家族様との話し合いにて本人様に合ったサービスを提供できるように努めている。	日常の会話や訴え等から本人様の思いをくみとり、カンファレンス開催時は本人様、御家族様に参加して頂きそれぞれの意向をお聞きし、1人1人に合わせたケア、サービスを検討している。意向の把握困難な方はご家族様の意向を聞き、本人様にあったサービス提供出来るように努めている。	利用者それぞれ担当者制をとっており、職員と利用者は日々の関りの中で、寄り添い会話をするを心掛け、意思疎通ができています。入浴中などゆっくりした時間で思いが聞けることもある。また傾聴ボランティアの訪問があり、利用者との会話する中で思いが伝えられたり、発語のない利用者には家族からの意向を聞くこともあるが、表情や仕草などから意向の把握に努めている。得られた情報は職員で共有し思いに沿うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自室にはこれまで使用されてきた家具や家族様との写真、愛猫の写真等を飾り馴染まれた環境の中で少しでも安心して生活して頂けるように努めている。	フェイスシート等で利用者様の生活歴を把握し、馴染みの生活環境に近い状態で安心して生活して頂けるよう支援している。馴染みの空間作りの為に、使用されていた家具やテレビ、仏壇を自室に置かれている利用者様もおられる。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックやコミュニケーションから一人ひとりの状態の把握に努めている。	毎日のケア記録は、利用者様本人が発せられた言葉等そのまま記録し、表情や行動、体調などから現状を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成の際は、利用者様、家族様、介護士、医師、看護師、歯科医師、理学療法士等他職種からの意見も参考に作成している。プラン実行中でも、状態の変化があらわれる場合は、その都度見直し、状態に合ったプランに変更している。	介護計画作成の際は、利用者様、御家族様、介護スタッフ、医療関係者等の様々な意見を取り入れ作成している。介護計画実施中でも、状態の変化があらわれる時は、その都度計画見直し、変更行っている。	本人や家族の意向が反映された計画が作成されている。定期的にモニタリング評価を行い、利用者の状況変化に応じて見直しが随時行われ、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護計画を把握し、担当スタッフは月末に実施評価を行っている。スタッフは毎日個別に日々の状態を記録し、月初めのミーティングの際や、必要であれば、その都度ケア会議を開催し、介護計画の確認、利用者様の現状を共有し現場で実践できるように努めている。	個別の介護計画を把握し、担当スタッフは月末に実施評価を行っている。スタッフは毎日個別に日々の状態を記録し、月初めのミーティングの際や必要であれば、その都度ケア会議を開催し、介護計画の確認、利用者様の現状を共有し現場で実践できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態の変化や家族様の要望に応じて、併設の病院医師と連携、他の医療機関への受診も含めて対応するなど、柔軟な対応に取り組んでいる。	御家族様とは連絡をまめに行い、利用者様の状態を常に知って頂き、その時にあるニーズに対応している。ニーズの変化にも柔軟に対応出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	週に一回、地元ボランティアの方と一緒に歌や踊りをしたり、行事の際に近隣の園児と一緒に遊戯等を楽しみながら交流し、地域内外の方々との関わりを大切に支援に努めている。	週に一回、地元の方のボランティアにて歌や踊りハーモニカ演奏等のレク活動、月に一回の傾聴ボランティア訪問、年に一回のオレンジカフェの開催を行い、地域内外の方々との関わりを大切に支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	本人様の状態が、かかりつけ医に 分かる様に併設の病院とも連携を 取りながら、情報提供行っている。 (病院受診される週の1週間分のバ イタル、排便状況、変化、気づき等)	本人様の状態が、かかりつけ医に分 かる様に併設の病院とも連携を取り ながら、情報提供行っている。(病院 受診される週の1週間分のバイタル、 排便状況、変化、気づき等)		利用者と家族が希望する病院で定 期受診は、基本的に家族の方に依 頼している。また居宅療養管理指導 も行われており選択は任意である。 緊急時には協力医療機関や併設医 療機関に相談し対応している。歯科 医は訪問歯科での受診を支援して いる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪 問看護師等に伝えて相談し、個々の利用 者が適切な受診や看護を受けられるよう に支援している	介護職員は利用者様のバイタル面 や体調面を情報共有しケアを行って いる。併設の病院とも連携し看護師 が週1回、医療連携に來られてお り、日頃の様子や状態の変化を報 告し、助言を頂いている。特に気にな る方については看護師から主治 医へ報告して頂き、適切な受診や看 護が受けられるよう支援している。	併設の病院より、週1回看護師が医 療連携に來られており、利用者様の 状態を見て頂いている。利用者様の 状態で気になる事がある時は、相談 し助言を頂いている。特に気になる 利用者様については看護師より主治 医に報告して頂き、適切に病院受診 ができるように支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院できる ように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。又は、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行って いる。	利用者様の入院時は、病状の把握 ができる様に訪問や、ご家族様との 連絡を取りながら、早期退院に向け て病院関係者との情報交換に努め ながら、本人様やご家族様が安心し て治療できるように努めている。	利用者様の入院時は、病状の把握 ができるように訪問したり、家族様と 連絡を取りながら、早期退院に向け て病院関係者との情報交換に努め ている。又、病院のCFにも参加し、 本人様やご家族様が安心して治療 できるように努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所ですることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りに関する話や特変 時の対応等の話をしている。又、状 態の変化に応じてその都度、ご家族 様と相談している。ご家族様と本人 様の意思を尊重し、ホームで出来る 事を説明しながら、方針を共有出来る ように取り組んでいる。	契約時に看取りについての説明や、 特変時の対応など話をしている。又、 状態の変化等気づきがある時は、看 護師も交えながらご家族様と相談し ている。ご家族様と本人様の意思を 尊重し、ホームで出来る事の説明行 いながら、方針を共有できるように取 り組んでいる。	重度化や看取りに関する指針が備 えられ、契約時に利用者や家族に 説明が行われ同意を得ている。これ までも看取りの経験がある。利用者 の状態に応じて、家族や主治医と話 し合いを持ち、利用者本人や家族が 納得した最期を迎えられるよう支援 している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練はできていない。急変時や特変時は、併設の病院に状態報告し助言を頂いている。	定期的な訓練はしていないが、急変や特変ある時は、併設の病院(医師、看護師)に連絡を取り適切な指示を受けて対応出来る様に努めている。又、管轄の消防署主催の救急法講習会に参加し、訓練を繰り返す事で、実践力を身に付けるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者の職員を中心に防災訓練を年2回実施している。119通報マニュアルや夜間火災、停電の対応マニュアルを作成している。又、運営推進会議では区長さんや、民生委員さん等の外部からの意見や提案など頂き協力体制を築いている。防災無線を設置しています。水害時、地震時の訓練は行っていません。今後の課題です。	防火管理者の職員を中心に防災訓練を年2回実施している。119通報マニュアルや夜間火災、停電の対応マニュアルを作成している。又、運営推進会議では区長さんや、民生委員さん等の外部からの意見や提案など頂き協力体制を築いている。防災無線を設置しています。水害時、地震時の訓練は行っていません。今後の課題です。	定期的に消防署の指導を受けに防災訓練が実施されている。利用者も参加し夜間想定訓練も行っている。職員に自動緊急通報システムを整備している。また隣接する近隣の民家に、避難訓練の情報を伝え、消防団の協力も得ている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の心理状態や体調面を把握しプライバシーの保護に配慮し、個々に応じた言葉掛けや行動をしている。	勉強会や、ミーティング等で日々の言葉かけの振り返りをしている。又、プライバシーの保護を実践し、利用者様の尊厳を常に考えながら対応するように心がけている。	権利擁護や具体的な接遇に関する勉強会を行い、日常の支援の中で常に利用者の尊厳を意識しながらの対応や声かけがなされている。管理者が助言や指導を行うこともある。個人情報保護の遵守については運営規程や重要事項説明書にも謳われており、守られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中からそれぞれの思いやニーズを把握できるよう努めている。又、思いを言葉に出せない方には表情や動作等で推察しケアを行っている。介護職員間でも情報を共有し、常に話し合いの場を設けている。	1人1人の利用者様の思いやニーズを把握出来るようにコミュニケーションを取り理解に努めている。認知症の症状によっては、難しい事もあり、1人1人の思いや、ニーズを掴みきれない。利用者様の思いを汲みとれるように支援して行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ利用者様のニーズに沿うケアを心掛けている。しかし、業務優先の時もありホームのスケジュールに合わせて頂いており、そのことを反省し自覚しながら、出来る限り利用者様の希望に応えられるように努めていきたい。	出来るだけ利用者のペースに合わせて支援を心掛けているがホームの時間やスケジュールに合わせて頂いている事も多い。また、業務優先になっている職員も多くその事を反省しながら利用者の希望に沿った支援ができるように努めたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室等へは、本人やご家族様の要望を第一に、好みの店舗への予約や手配を行っている。又、美容室へ通う事が難しい方は、ホームで地元の美容室へ依頼し来荘して頂いている。	家族様の送迎で美容室に通われている方もいますが美容室に通う事が困難な方は地元の美容室に訪問を依頼しお願いしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は調理専門の方がされており、利用者様との調理は出来ていない。個々の嚥下状態や好みに合わせて食事形態や食材等を考慮し提供している。又、下膳や食器洗い等出来る方には声掛けし出来る時にして頂いている。	調理専門の方が調理されており利用者と一緒に調理が出来ていない。下膳や食後の食器洗いなど出来る時にして頂いたり利用者の出来る事をして頂いている。	献立は法人の管理栄養士が立てるが、調理専門のスタッフが調理し、利用者の嗜好や誕生日に合わせて献立のアレンジも行っている。介助が必要な利用者には、声をかけながらゆっくり支援がなされている。調理の音や匂いは、利用者の食欲や五感を刺激している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに応じた食事量を考え、また食欲減退や水分摂取量が少ない方には、ゼリーや果物など好まれる物で補給して頂けるよう工夫し、栄養バランス、水分摂取量に心掛けて支援している。	併設病院の栄養士が立てた献立表を使い調理員で調理し、その方にあった食事形態(刻みや一口大)や量で提供している。水分摂取量は随時確認し1日の摂取量が少ない方には好みの飲み物を提供している。ムセがある方にはトロミを付けて水分補給出来るように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯についてはブラッシングのみして頂き就寝時は朝まで洗浄液に浸けて頂いています。残存歯は、磨き残しを介助しています。	義歯を使用している方には夜間に全員洗浄剤に浸けて頂いている。自立の方は本人でされている為、口腔内の確認が出来ていない。介助の必要の方はスポンジを使用したり残渣物がないようにしている。家族様と相談し歯科往診を定期的に受けられている方もいらっしゃる。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、声掛けにてトイレ誘導し失禁の減少に努めています。また、認知症の進行や加齢による排泄動作の戸惑いのある方については、見守りや介助を行い失敗による不安や羞恥心を最小限にするよう支援しています。	自発的に訴えられず誘導が必要な方には本人様の様子を伺い声掛けを工夫し誘導を行っています。尿、便汚染時の本人様の不快感軽減に努めている。排泄の失敗による不安や羞恥心を最小限に抑えて支援しています。また、ご自分で出来る範囲は、必要に応じて声掛けを行ない自立支援を促しています。	利用者一人ひとりに合わせた排泄の自立支援を心掛けている。声かけや誘導で日中は可能な限りトイレでの排泄支援を行っている。紙パンツや尿パット、オムツなど必要に応じて支援しているが自立支援に視点を置き、改善された方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食間のおやつ時や入浴後に水分補給を必ず行いそれ以外でも、ミカンなど果物を食べて頂いています。体操で身体を動かしたり廊下歩行をして頂いています。なお慢性の方については、投薬で対応しています。	慢性的な便秘の方には緩下剤を服用して頂いています。日頃から水分摂取をこまめに行っていますが、残される方もいらっしゃいます。残される方には声掛け氏で摂取促しています。また、摂取量が少ない方には好みの物を提供し飲んで頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	原則週3回月・水・金(冬場は月・金)を入浴日にして頂いています。毎回入浴剤を入れて香りや色や温泉気分を楽しんでもらっています。また、保温や保湿にもなっています。個々に応じた入浴支援にはなっていません。	原則毎週火、木、土を入浴日(冬場は火、土)に設定。毎回入浴剤を入れ気分を楽しんで頂いています。身体の状態に合わせて午前と午後に分けたり、入浴中止の方には温タオルで清拭。入浴拒否の方には様子を伺って声掛け工夫し入浴の声掛け行っていますがそれでも拒否される場合には次回の入浴日に見送ったりして本人様に無理のない支援を行っています。	基本的な入浴日はあるが、毎日入浴の準備はできており、希望する方は何時でも入浴ができる。入浴を嫌がられる利用者には無理強いする事は無く、言葉かけを工夫したり、清拭などで支援している。脱衣場はエアコンで室温管理もできている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースで、就寝されています。自室にテレビのある方は見たい番組を見終わってから、あるいは、それがラジオであり、雑誌だったりします。眠くなれば消灯されます。以外の方は、声掛けしてご本人の意思をお聞きし誘導にて就寝介助しています。	日中は本人様のペースで休息されたり昼寝をされています。就寝時間は決まっておらず自室やDルームで読書やテレビ視聴をされています。本人様の状態によって眠前薬を服用されている方もいらっしゃいます。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病歴をある程度理解しており、錠剤の服用が難しい方については、粉砕にして飲んで頂いています。口中介助の必要な方については、その都度対応しています。臨時薬には袋に赤い線を入れ、変更時には申し送り簿に記入するなど職員が確認できるようにしています。	現病歴と薬剤の関連性について理解することに努めています。錠剤での服用が困難な方には粉末にしてゼリーやとろみをつけた白湯で服用して頂いています。薬の変更、臨時薬がある時は申し送りで口頭で共有し記録。臨時薬の袋に赤で線を入れ定期薬と区別している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	主婦業的な仕事を得意とする方には、洗濯物を干して頂いたり、歌、新聞紙や広告紙を折るなど思い々に自主的にあるいは、声掛けにて行われています。また、月ごとの誕生日会、ボランティアによる歌や踊り等皆さんで楽しんでもらえる企画をしています。	積極的に仕事を得意にされている方には洗濯物を干して頂いたり本人様、個々の出来る範囲で色々とお手伝いして頂いています。歌や塗り絵など得意分野を生かし職員と一緒にを行っています。季節に合わせた行事や誕生会は皆さん楽しんで頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力で、屋食を外で食べられたり、誕生日の日には食べたい物をお聞きし、外食したり可能な限り要望に応じられるよう努めています。	ご家族と定期的に外出や外泊をされる方もいらっしゃいます。普段、外出の機会が少ない時にはおやつの際にテラスへ案内したり、入居者の方が散歩したいと言われる時は近隣を散歩したりして少しでも外の空気を味わって頂き、気分転換して頂けるように支援しています。	天気がいい日は事業所周辺の散歩をしたりドライブに出かけることもある。利用者の希望を取り入れた年間行事計画も立てられており、季節に応じた外出支援が行なわれている。家族との外食や外泊の支援も行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人ご家族の方と十分に相談し理解のもと、自己管理されている方、職員管理を希望されている方で支援方法は個々ではあるが、いずれの方も自由に希望に応じた使用が出来るよう援助しております。	美容室代など外出用に持っておられる方、ご家族に電話をする時用に持たれている方、自分の手元に置いている事で安心をされる方、様々です。ご家族と話し合った上で自己管理されています。また、ご家族が全ての管理をされている方、必要な生活用品などの購入用に事務所管理をされている方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	毎月ご家族様に個人便りとして本人様の写真や情報をお知らせしています。本人様が電話を希望される際は預り金より公衆電話にてお電話して頂いています。	ご本人が電話を希望される場合は電話をかけた後、美容室に髪を切りに行く時に自分で電話をかけて頂いています。また、遠方に住まれているご家族と手紙のやり取りをして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(Ⅰ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(Ⅱ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	Dルームの数か所に季節の花を掛けて飾り、ソファで思いおもいに寛がれています。安全な導線確保や利用者様の体格等に合わせて、テーブル、ソファの配置を工夫しています。	壁に季節を感じてもらえるように月ごとにポスターを貼ったり、花や植木を飾ったりしています。また、共有スペースを居心地よく過ごして頂けるようにその都度、ソファの配置や食席の配置の工夫をしている。また、共有トイレはカーテンをし、不快にならないように配慮している。	リビングは広く、ソファやテーブルが効果的に配置されている。利用者は、そこで思い思いにくつろいでいる。利用者に馴染みのある月刊誌や新聞も置いてあり、愛読されている方もある。室内は空調管理も整っており、大きな加湿器が設置されている。浴室やトイレもきれいに掃除され嫌な臭いはない	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席やソファでテレビを見られる方や仲の良い利用者様同士でお話しされたり、塗り絵等の軽作業をされたりしています。	食席やソファで新聞を見られる方やソファでテレビを見たり、お昼寝をされる方もいます。仲の良い利用者様はおしゃべりを楽しまれたりして過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入荘時に出来るだけ今まで本人様が住まれてきた環境で過ごして頂けるよう、馴染みのある家具や品物を持参して頂き、少しでも安心して過ごして頂けるような空気づくりに努めている。	入荘の際、本人の馴染みのある家具や品物を持参して頂き、自宅で過ごされていた時と同じような空間で落ち着いた生活を送って頂けるよう対応している。また、家族の写真や本人が好まれる品物などを置く事で本人の不安の軽減に努めています。	物の持ち込みの制限はなく、居心地よく安心して生活できるよう支援している。使い慣れた家具、長年親しんだ馴染みの品物、趣味の道具など、その方らしい居室となっている。家族の写真、趣味の作品、テレビ、たんすなど色々なものが見受けられ、また亡きご主人の仏壇には佛飯や水など職員が毎朝準備し、利用者は安心してゆっくりと落ち着いて生活できる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室にトイレや洗面台が設置されている。利用者様が分かりやすいように、居室ドアに大きく名前と写真を貼り付け工夫している。Dルームのトイレや廊下、浴室などの共有スペースには手すりがあり利用者様が安全に生活できるよう工夫をしています。ベットは利用者様の状態に応じ、起居動作のしやすいベッドを使用しています。	各居室にトイレや洗面台が設置されている。利用者様が使い易くプライベートな部分も守られています。Dルームのトイレや廊下、浴室などの共有スペースには手すりがあり利用者様が安全に生活できるよう工夫をしています。ベットは利用者様の状態に応じ、起居動作のしやすいベッドを使用しています。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)			1. ほぼ全ての利用者の
		○	○	2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)		○	1. 毎日ある
		○		2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)		○	1. ほぼ全ての利用者が
		○		2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	○	2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	○	2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)		○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	○	2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない